

# そうだ、ラグビーを楽しもう。



●グラウンド 杉並区立天沼中学校グラウンド ●対象 年少～小学生の男女 ●活動日時 毎週日曜日 8:00～10:00 ●お問い合わせ 「杉並少年ラグビースクール」で検索！

## ラグビースクールが呼んでいる 第四回 杉並少年ラグビースクール

\* \* \*

グラウンドに響く子どもたちの元気なあいさつ。今日は新入部員が入ってきた。未経験者にラグビーの楽しさを伝えることがモットーの杉並少年ラグビースクールにまた一人、仲間が増えた。

今年で創立二三年を迎える杉並少年ラグビースクールでは、杉並区、中野区、練馬区などから集まった子どもたちが日々練習に励んでいる。生徒数は約50名だが、コーチ陣はラグビー経験者や生徒の保護者などを合わせて約20名もいる。ここでは生徒一人ひとりについていぬいな指導ができる環境が整っている。

「大人が悔しがらず、子どもに悔しらせる。それがスクールの目標なんです」と、ヘッドコーチの谷口史雄さんが話してくれた。

「試合や練習で、つい、コーチが熱くなつて、感情的になるときがあります。でも、主役はあくまでも子どもたち。コーチはサポート役です。子どもたち自身がラグビーを楽しんだり、ラグビーを通して成長することを一番考えています」

そのせいか、練習から子どもたちの主体的な取り組みが際立って見える。例え

ば、ボールを使つてのキャッチ練習、パス練習。ボール出しを行うのは子どもたちだ。コーチがボールを出し、子どもたちがパスを受け取る光景はよく見かけるけれど、なるほど、相手を取りやすい位置に投げることで、大事な練習だ。

「今年はおーストラリアの小学生と交流試合を行うことができました。オーストラリアの子どもたちは、試合にがける思いが強くみんな真剣。勝ちたいという気持ちが全面に出たプレーをしてくれました。この経験は子どもたちにとって大きいものになると思います」

この日の後半、ゲーム形式の練習が行われた。「ナイストライ！」誰かがトライを決めると声をかけあう。「こっち、こっち！」「ドンマイ！」試合中、ボールを呼ぶ声や味方を励ます大きな声が飛び交う。ボールを追う子どもたちの表情はますます生き生きとしてくる。ボールを投げることで、ボールを持って走ることを純粋に楽しんでいる。子どもたちの集中力が高まるにつれ、いつの間にかコーチたちはフィールドの脇で、子どもたちをただじっと見守っていた。

大人が悔しがらず、子どもに悔しらせる。この言葉に込めた思いは、たしかに子どもたちに届いているようだ。■